

新緑の候 宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様には、益々ご健勝の事と衷心よりお慶び申し上げます。

また皆様には日頃より、当会運営に付き格段のご高配を賜り、重ねてお礼申し上げます次第です。

さて先月の自衛隊関連行事は4月2日の夕刻より、都城駐屯地で初の夜間観桜会があり、都城池田市長を始め今回の参議院選挙に出馬する松下新平参議院議員等多数のご来賓ご臨席の下、安田連隊長の元気なご発声により、賑やかな祝宴が始まりました。

また同6日は永田町の衆議院議員第2会館にて「美しい日本の憲法をつくる国民会議」総会が開催され出席してきましたが、与野党の国会議員や櫻井よしこ氏等、マスコミを賑わす著名な方々が順次ステージに立ち、早急な憲法改正の必要性をそれぞれのお立場から貴重なご発言を頂いたところです。

そして同9日は高等工科学校第62期生徒入校式が横須賀武山駐屯地で挙行され、345名の若桜が全国から参集し識別帽を贈呈させて頂きましたが、今年もまた彼らの澆刺とした姿から、沢山の勇氣と元気を分けて貰ったような気がします。(笑)

ところで4/14に発災した熊本地震には大変驚きましたが、被災者救援物資搬送のため普天間基地所属の「オスプレイ」が米軍より派遣され、また朝日新聞を始めとする偏向マスコミから穿った報道が連日発信されました。

その件に関し過日小川和久先生からメルマガが届き、以下に転載しますので支部会員の皆様も是非ご一読頂き、ご意見など賜れば幸甚に存じます。

オスプレイ拒絶症候群

熊本地震の救援活動に米海兵隊の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイ4機が投入されたことについて、次のような報道がありました。

米軍オスプレイ、初の災害対応 実績づくりに疑問の声も

「米軍の新型輸送機オスプレイが18日、熊本地震の被災地へ物資輸送を始めた。オスプレイが日本の災害対応に使われるのは初めてだ。今回の救援活動に必要なのか。安全面に問題はないのか。疑問の声が出ているが、日本政府と米軍は、オスプレイの災害派遣での実績づくりを急いだ。

防衛省によると17日に4機が米軍岩国基地に到着。そのうち2機が18日午後、熊本空港と被災地の熊本県南阿蘇村を2往復し、水や食料、簡易トイレといった救援物資を運んだ。

だが、自衛隊にも約60人乗りの大型輸送ヘリCH47が約70機ある。約30人乗りの米軍オスプレイがさらに必要なのか。疑問の声が上がる。

『オスプレイに対する国民の恐怖感をなくすために慣れてもらおうということで、こういう機会を利用しているとすれば、けしからんことだ』。共産党の小池晃書記局長は18日、朝日新聞の取材に語った。同日の参院決算委員会で同党議員に質問された中谷元・防衛相は『安全性を保証している。自衛隊のヘリ能力だけでは十分に現地に物資が届けられていない』とオスプレイの必要性を強調した。

安倍晋三首相は、17日午前8時半過ぎには米軍の輸送支援について『直ちに米軍の支援が必要という状況ではない』と語っていたが、2時間半後には『輸送ニーズが整い次第ただちに実施したい』と方針転換した。防衛省関係者は『米軍オスプレイの支援は必ずしも必要ではないが、政治的な効果が期待できるからだ』と説明する。

米軍普天間飛行場のオスプレイには、騒音被害や事故への懸念が絶えない。自衛隊が陸自オスプレイ17機を佐賀空港(佐賀市)に配備する計画も、地元の反対で進んでいない。

しかし、今回オスプレイを十分に活用できれば、その安全性や性能を広く知らせる機会となりうる。中谷氏は、18日の参院決算委でオスプレイは垂直離着陸が可能であることから『山間部など狭隘(きょうあい)な場所でも物資を運ぶことができる。災害時に役立つ能力がある』と有用性を強調した。

自衛隊と米軍は18日、陸自西部方面総監部(熊本市)に、物資輸送の割り振りをする『日米共同調整所』を設置した。昨年改定した日米防衛協力のための指針(ガイドライン)では、日米が災害で協力することも盛り込まれた。今回のオスプレイの活動は『日米同盟が深まっている』(別の防衛省関係者)ことを示す場でもある。(二階堂勇) (4月19日付け朝日新聞)

そして、ネット上では様々なコメントが飛び交うことになりましたが、それなりの根拠に基づいているのは、陸上自衛隊が56機、航空自衛隊が15機と自衛隊が合計71機を保有しているCH47チヌークの輸送能力との比較です。

確かに、オスプレイは最大巡航速度時速520キロ(陸上自衛隊CH47JAは270キロ)、満席時の行動半径600キロ(CH47JAは500キロ)と、CH47などヘリコプターを大

きく上回っています。

しかし、**搭載能力**となると乗員を含む**座席数**27(CH47は陸上自衛隊型58、航空自衛隊型60)、**ペイロード**は機内最大9.1トン、機外吊り下げ最大5.7トン(CH47は機内・機外とも最大8.5トン)と、**CH47より下回っている**のです。(以上、CH47の機数、速度、座席数は『防衛ハンドブック2015年版』と空自ウェブサイト、行動半径、ペイロードとオスプレイの性能は防衛省『陸上自衛隊ティルト・ローター機等の佐賀空港への配備について』)

その点から見ると、地震の被害がなかった**九州の自衛隊基地を拠点**に救援活動するというのは、スピード、航続距離の点からもなんら問題はなく、搭載能力で上回るCH47を投入するのが**自然**であることは間違いありません。

そこで朝日新聞に質問です。記事は、**あたかもCH47が投入されていない結果**、オスプレイの支援が必要となったとの印象を振りまく書き方ですが、自衛隊のCH47はちゃんと投入されているのです。

陸自第1ヘリ団は、4月16日に4機を派遣しています。

<http://www.mod.go.jp/gsdf/crf/heridan/index.html>

時事通信は4月17日、東海大学阿蘇キャンパスの陸自CH47の映像を配信しています。

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160417-00000035-jijp-soci.view-000>

空自も4月19日までにCH47を福岡空港などへ派遣しています。

http://www.mod.go.jp/asdf/about/role/saigai_kumamoto/index.html

これについて、朝日新聞はどう答えるのでしょうか。

さらに、朝日新聞の記事とネット上のコメントについて指摘しなければならないことがあります。

CH47を一定数しか投入せずにオスプレイで救援活動したことをもって、「**政治的**」と決めつけてよいのかという点です。

いやしくもジャーナリストなら、以下の点に**疑問**を持たなければならないのではないのでしょうか。いかに日米同盟が固い絆で結ばれ、円滑に機能しているさまを中国や北朝鮮に見せつけたいからといって、合計71機も保有しているCH47の一部しか投入していない背景には、なにか**重大な理由**があるのではないかという点です。

それを取材し、国民に伝えるのが**ジャーナリズムの仕事**のはずです。

その意味で、朝日新聞の記事は取材が甘く、オスプレイへの拒絶反応というイデオロギーにまみれているといっても、過言ではないと思います。

CH47を一定数しか投入しなかった背景に斬り込んだ記事を期待しています。

実を言えば、私はその理由を知っていますが、ここでは申し上げません。

(小川和久)

以上のように誠におどろおどろしく偏った記事を掲載し、朝日新聞等は読者を一体何処へ導こうとしているのか想像するだけでも、空恐ろしくなります。

宮崎支部会員諸兄は勿論正常な判断が出来る事とは思いますが、様々な情報を分析し、何卒正確な状況判断を周囲の方々に是非ともお伝え下さい。

結びに熊本地震で亡くなられた約50名の方々のご冥福及び、被災された熊本県民の皆様の一日も早い復興、そして余震の収斂を共に祈念したいと存じます。

尚時節柄、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

平成28年5月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦